

板倉区 地域協議会だより

第68号 2026. 3. 25

発行 板倉区地域協議会
編集 地域協議会だより編集委員会
上越市板倉区針722-1
(板倉区総合事務所内)
TEL 0255-78-2141

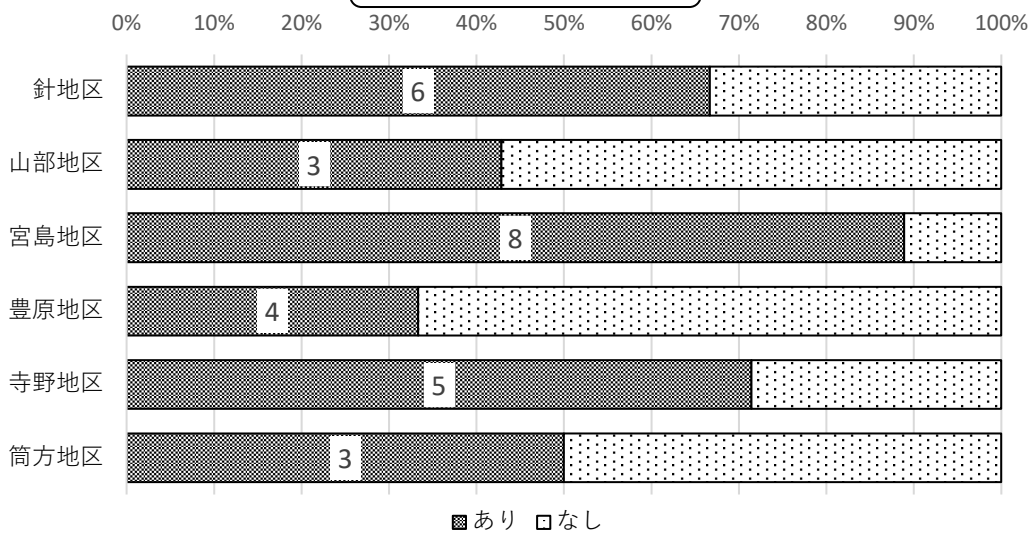
板倉区高齢者アンケート集計結果（老人クラブ編）

前号でも掲載いたしました。板倉区地域協議会健康福祉部会では、「高齢者が安心して暮らせるまち」をテーマに話し合いを進めていく中で、住みよい板倉区の構築のため、まずは高齢者の皆さんが日ごろ感じておられることとお聞きしたいと、アンケート調査を企画いたしました。

町内会長様にご尽力いただき、町内会の代表者様、町内から選出された60歳以上の方を対象にアンケートを実施したところ、46町内会、205人も多くの方からご回答いただきました。厚く御礼を申し上げます。

その結果を地域協議会だよりにて複数回に分けてお知らせいたします。今回は「老人クラブ」についてです。

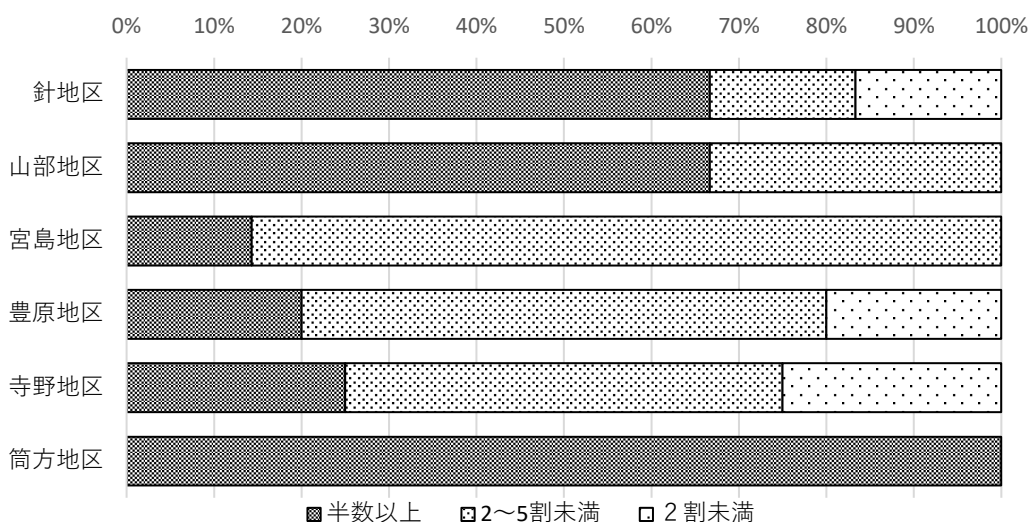
老人クラブの有無



【ひとくちメモ】

6地区で比較すると、宮島地区の町内会でクラブがあるのは8町内会（約90%）。結成数と結成割合が一番多いことがわかりました。

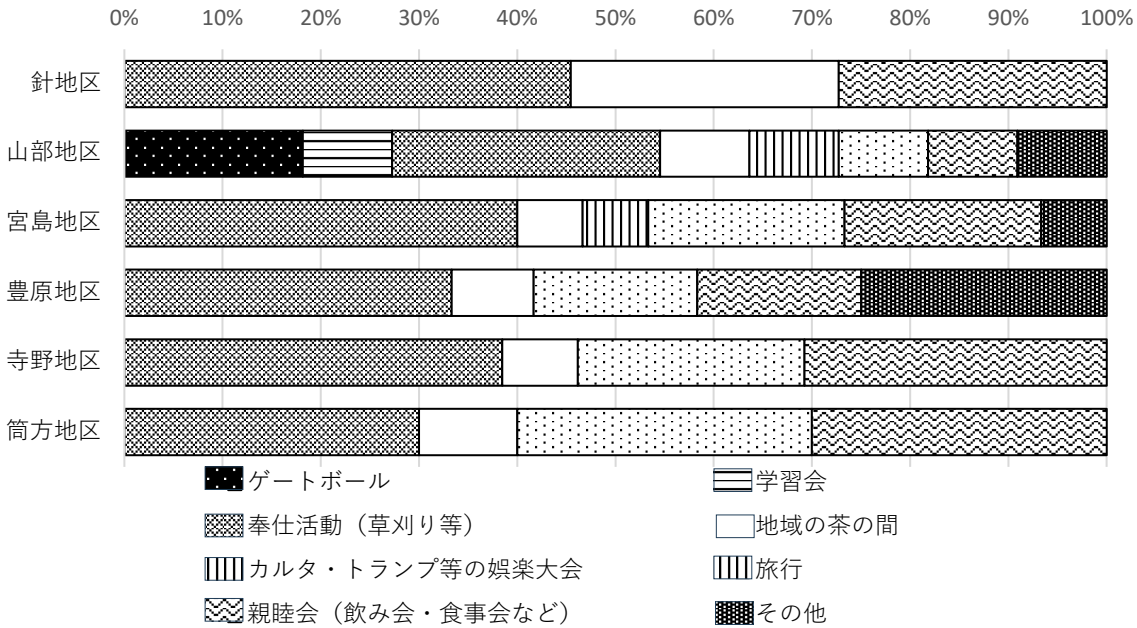
会員の参加状況



【ひとくちメモ】

会員の参加が活発な地区はどこでしょう？筒方地区にある老人クラブはいずれも半数以上の会員が参加しており、参加者の意識の高さがうかがえます。

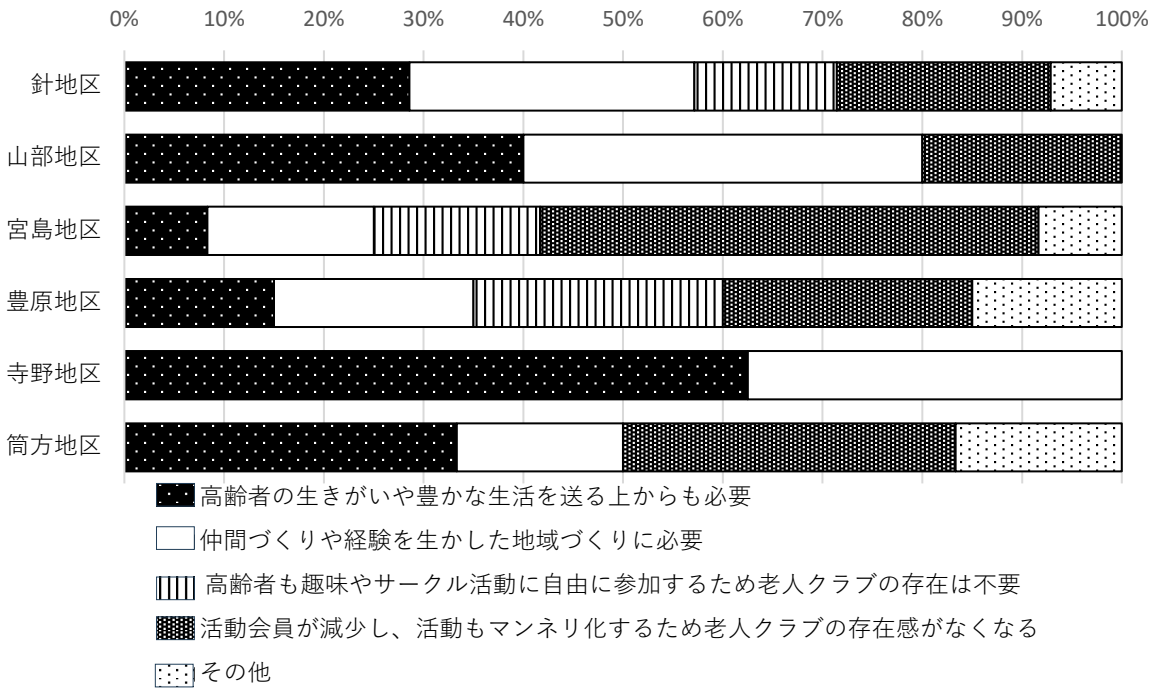
行事又は活動



【ひとくちメモ】

普段どんな活動をしているのでしょうか。奉仕活動（草刈り等）や親睦会（飲み会・食事会）はどの地区でも多い活動のようです。一部ではゲートボールや学習会など趣向を凝らした活動も見受けられます。

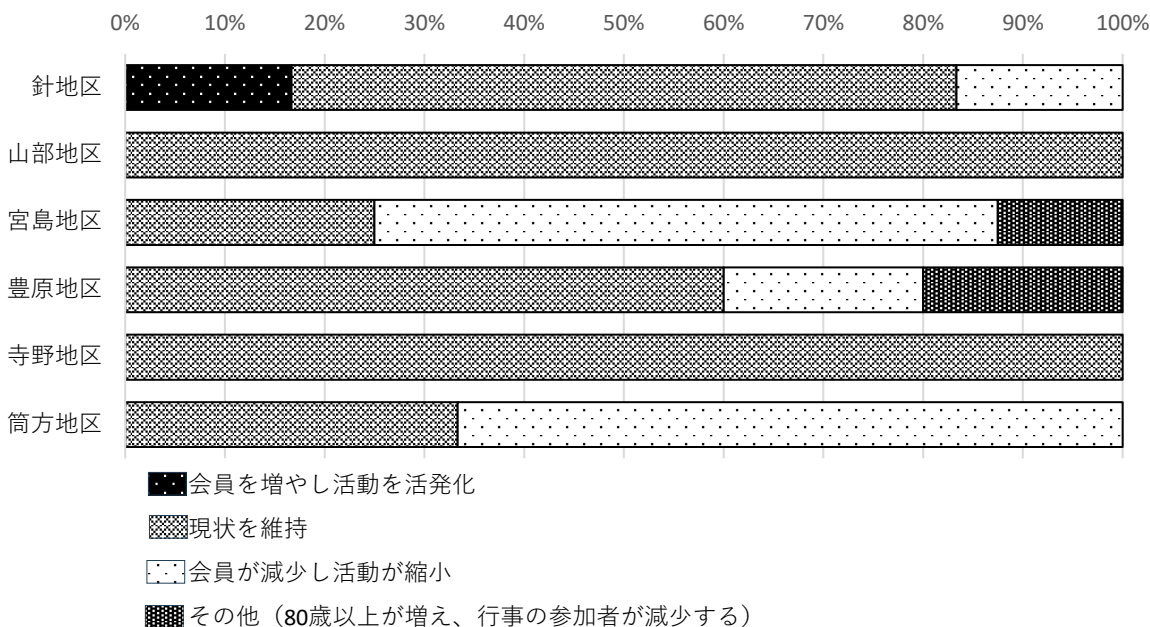
今後の存在意義



【ひとくちメモ】

「高齢者の生きがいや豊かな生活を送る」「仲間づくりや経験を活かした地域づくり」など老人クラブは必要と考えているのは、寺野地区、山部地区が多い結果となりました。

今後の活動方向



【ひとくちメモ】

今後の活動について針地区の一部からは、会員を増やし活発を活性化するとの前向きな回答がありました。各地区で開きはありますが、全体的には現状を維持するとの回答が多いです。

板倉区高齢者アンケート結果報告書（老人クラブ編）

1 調査の背景と目的

板倉区地域協議会が実施した本アンケートは、板倉区の高齢化率が40.25%（65歳以上2,321人/人口5,766人）に達している状況を踏まえ、高齢者の活動状況を把握し、課題を明らかにすることを目的として実施したものです。

本報告書では、そのうち老人クラブに関する項目について整理し、結果から読み取れる傾向と今後想定される動向について分析しました。

2 設置状況から見える現状と想定される動向

板倉区内50町内のうち29町内で老人クラブが設置されており、設置率は58%。一方、21町内では未設置（または解散）となっています。

平場と山間地では未設置の割合はほぼ同等ですが、地区によって未設置の差が大きく、人口規模や地理的条件並びに老人クラブの存在意義の相違が組織維持に影響している可能性が考えられます。

想定される変化

- ・ 高齢化率がさらに上昇する場合、活動可能な会員層（60～74歳）の割合が相対的に減少する可能性があります。
- ・ 山間地では未設置地区の増加、または既存クラブの統合・解散が生じる可能性があります。
- ・ 一方で、地域の結びつきが強い地区では、小規模化しながら継続する形態へ移行する可能性も考えられます。

3 活動内容から見える傾向

活動内容では、奉仕活動や親睦会、娯楽大会の実施が多く、競技型活動は限定的です。

これは、身体的負担が比較的少ない活動や交流型活動が中心になっている傾向を示していると考えられます。

想定される変化

- ・ 高齢化がさらに進行すれば、旅行や競技型活動は減少し、茶話会や軽運動などの交流型活動が中心になる可能性があります。
- ・ 奉仕活動についても、参加可能人数の減少により実施頻度が縮小する可能性があります。
- ・ 町内会行事との一体化が進み、老人クラブ単独活動が減少する可能性も想定されます。

4 参加状況から見える組織の活力度

参加状況は「半数以上参加」と「2～5割未満」がほぼ同数となっています。

これは、一定の参加は維持されている一方、全員参加型ではない状況を示していると考えられます。

想定される変化

- ・ 参加率が中程度の地区では、中心的参加者の高齢化により、今後急激に参加率が低下する可能性があります。
- ・ 参加率が高い地区でも、役員世代の引退により組織運営が困難になる可能性があります。
- ・ 逆に、負担の少ない活動へ転換できた地区では、参加率が安定する可能性もあります。



5 今後の活動方向から見える将来像

今後の方向として「現状維持」が最多であり、「縮小」も一定数ある一方、「活発化」はごく少数です。併せて、10年位前にあった老人クラブの雪崩解散も落ち着いたようです。

これは、多くの地区が拡大よりも維持を志向している状況を示しています。

想定される変化

- ・現状維持を選択した地区も、会員減少が続けば結果的に縮小へ移行する可能性があります。
- ・縮小と回答した地区では、解散や休止に至る可能性もあります。
- ・活発化を目指す地区では、若い高齢者層の参加が鍵となる可能性があります。

6 存在意義に関する意識と将来的影響

存在意義については、「生きがい」「地域づくりに必要」との肯定的回答が多くなっています。一方で、担い手不足や解散に関する記述もあります。

これは、理念としての必要性は認識されているが、運営上の不安が併存している状態と考えられます。

想定される変化

- ・役員の担い手不足が続けば、理念的必要性があっても組織存続が難しくなる可能性があります。
- ・老人クラブの機能が、町内会や他の高齢者サークルへ移行する可能性があります。
- ・名称や形態を変更しながら継続する可能性も考えられます。

7 総合的見通し

- ・設置率は現時点で58%を維持していること
 - ・活動は交流型中心へ移行していること
 - ・参加率は中程度が多いこと
 - ・今後は「維持」または「縮小」を見込む地区が多いこと
 - ・存在意義は肯定されていること
- が確認できました。

今後想定される動向

- ① 小規模化しながら継続する地区
 - ② 町内会活動と一体化する地区
 - ③ 縮小・休止・解散へ向かう地区
- の三つの方向性が並行して進む可能性があります。



【次号へ続く】

ひとこと

年度末を迎え、地域協議会では任期中間の総まとめと、後期任期での活動方法を定める作業に入っていきます。

今日まで、地域フォーラムや高齢者へのアンケートなどにより各町内会を含め、地域の現状や今後の課題の洗い出しを行ってきました。

後期の2年間で、今までのフォーラムやアンケートをどう生かしていくのか具体的な作業に入っていきます、委員の知恵の出どころと思われれます。

最後に、「地域協議会だより」が全戸配布から班ごとの回覧に変更になりますので、ご理解をお願いいたします。

編集委員長 庄山 健